

令和5年3月17日（金）
政府関係機関移転に関する有識者懇談会（第6回）



文化庁京都移転と京都府の文化政策



京都府

文化庁移転の意義



- 明治以来初となる中央省庁の移転
 - 地域文化の掘り起こしや磨き上げ等、国と地方が連携した新たな文化政策を総合的に推進
- ⇒ 取組成果を全国に波及させることで、我が国の文化政策の新たな潮流を生み出す。

<何故、京都なのか>

京都は、長い歴史をかけて積み重ねられてきた日本の文化の集積地であり、現在も日々の生活の中に文化が息づいている。

こうした京都から世界に発信していくことで、人々に日本の文化の厚みや深さを伝え、感動をもたらす。

岸田総理の京都府訪問（令和4年5月21日）



文化庁移転施設整備状況を視察し、続いて文化芸術関係者と意見交換会が行われた。

○岸田総理 京都府訪問等についての会見 <要約>

- 来年3月27日に、文化庁長官を始め京都の新しい文化庁での業務を開始する。職員の移転は、大型連休明けの5月15日に、職員の大半が移転することを目指すことを決定
- 移転が本格化する令和5年度の予算要求に向けて、準備を着実に進めていく
- 古くから伝統文化を大事にしながら新たな文化を国内外に発信し続けている、こうした歴史を重ねてきた京都に文化庁が移転するということ、単に、東京の一極集中の是正にとどまらずに、文化芸術のグローバルな展開、文化芸術のDX（デジタルトランスフォーメーション）化、観光や地域創生に向けた文化財の保存活用といった、新たな文化行政を一層進める上で大きな契機になると期待をしている



西脇知事から施設整備状況の説明を受ける岸田総理

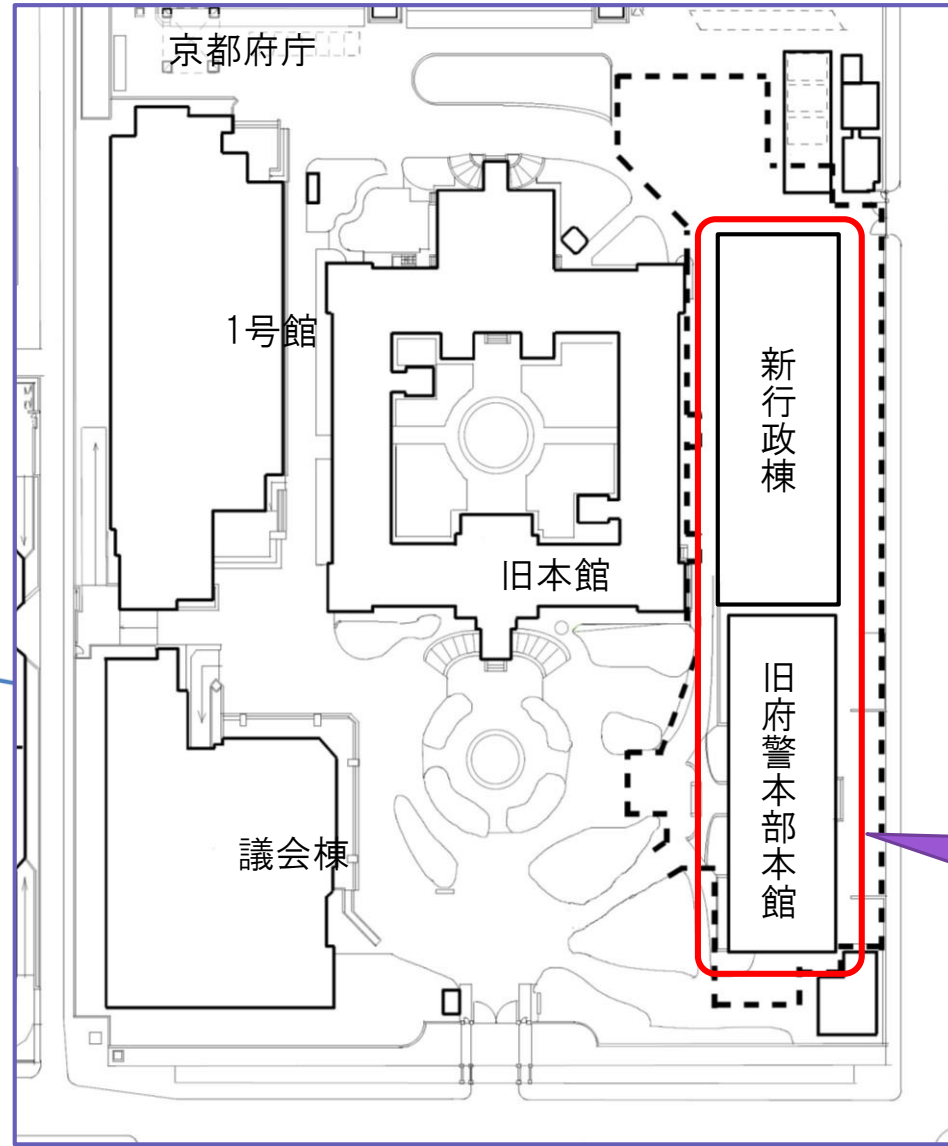
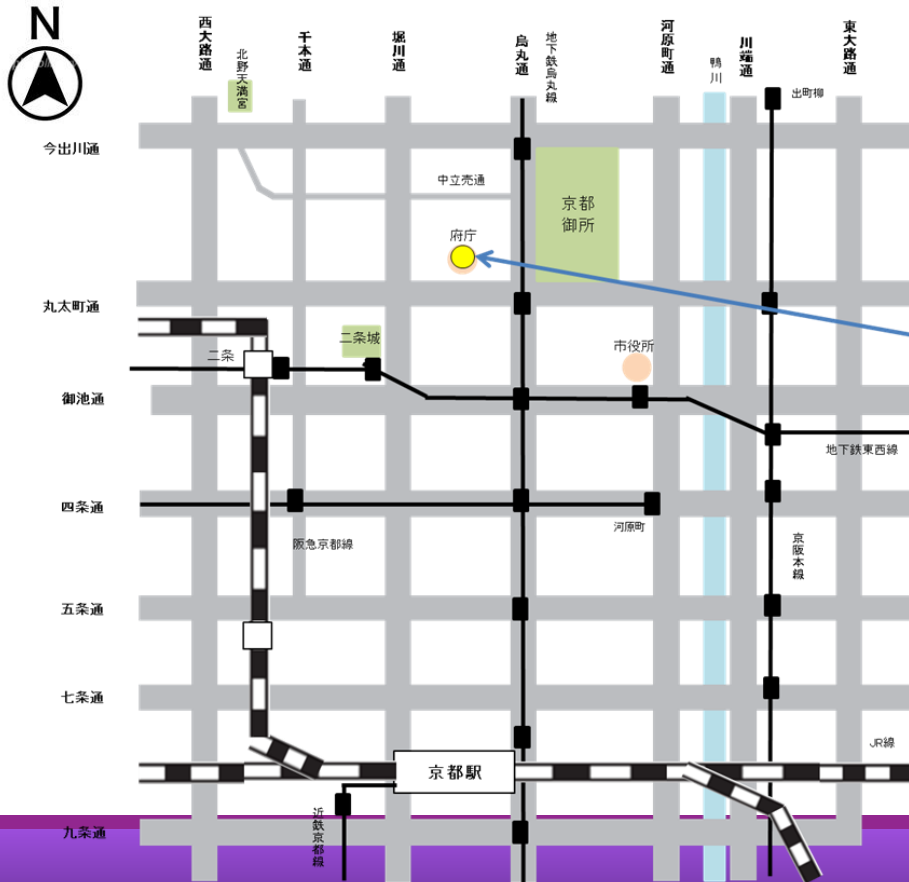


文化芸術関係者との意見交換会
（於 府庁旧本館旧知事室）

移転場所

○ 旧京都府警察本部本館

昭和3年に京都で行われた昭和天皇の「即位の礼」に合わせて建設された京都の近代化遺産



京都府が京都市などの協力を得て、文化庁の受入環境整備の一環として移転の規模に応じ、同本館の耐震化も含めた改修・増築を行うこととし、整備後、文化庁は、本庁の庁舎として、京都府の条例等に基づいた適切な貸付価額で、長期的に貸付を受ける。
(平成29年7月25日文化庁移転協議会)

文化庁京都庁舎

庁舎整備（行程・工事概要）



年 月	内 容
平成29年10月	基本計画 検討開始
平成30年 3月	基本計画 策定
10月	基本・実施設計 開始
平成31年 3月	基本設計 完了
令和 2年 3月	実施設計 完了
5月	整備工事 開始
	<ul style="list-style-type: none"> ● 旧府警本部本館の耐震化、保存・活用等を含む改修 ● 文化庁と京都府の機能をあわせもつ新行政棟の増築
令和 4年12月	新行政棟・文化庁移転施設 竣工

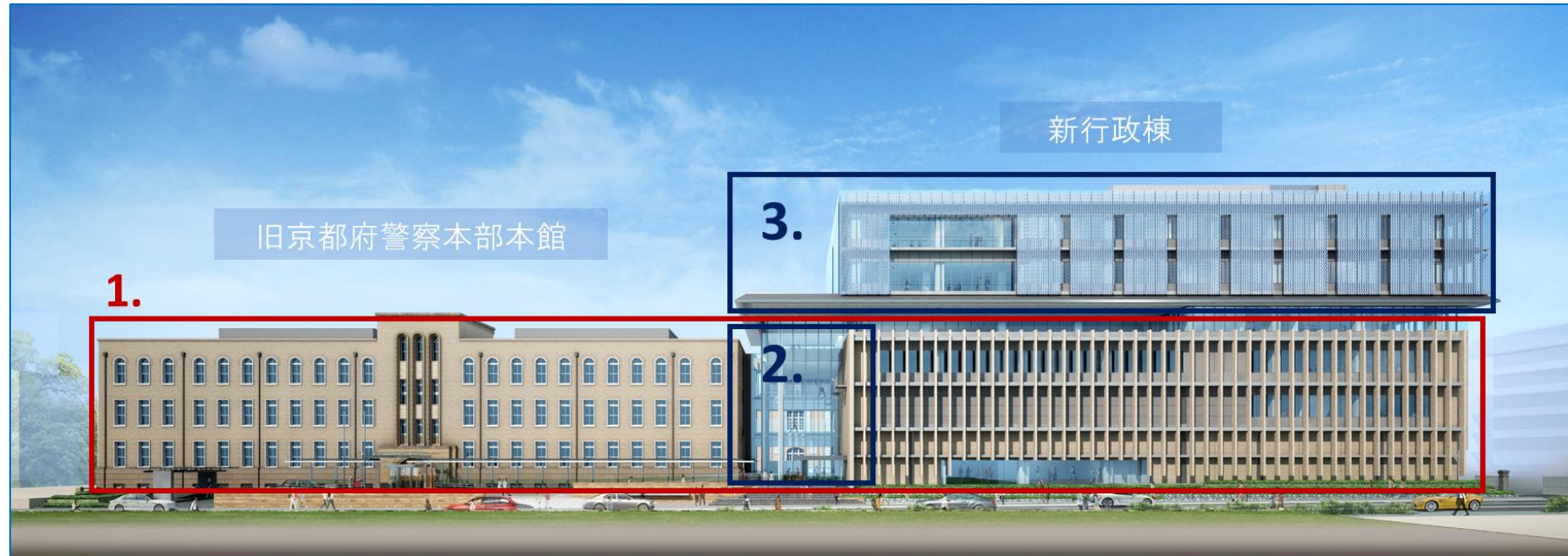
平成29年7月
移転先が旧京都府警察本部本館（当時は現役の警察本部庁舎）に決定

平成30年8月
文化庁使用部分の整備規模（面積、増築等）が決定

令和5年1月4日
文化庁において庁舎使用開始

- 建物
 - 旧京都府警察本部本館（改修）
 - 地上3階、地下1階建、延床面積 4,391.61 m²、鉄筋コンクリート造
 - 新行政棟（新築）
 - 地上6階、地下1階建、延床面積 9,280.62 m²、地上鉄骨造 地下鉄筋コンクリート造
- 工期
 - 令和2年5月28日から令和4年12月28日まで

庁舎整備（デザイン計画）



1. 文化庁エリア

旧京都府警察本部本館と新行政棟3階の軒レベル、デザインを揃え、文化庁の独立性・シンボル性を表現

2. ガレリア

本館と新行政棟の間を透過性の高い空間で繋げて、新町通側や府庁旧本館（国の重要文化財）側からの見通しに配慮

3. 新行政棟上層階

屋根の軒線が上下を区分することで、高層ボリュームへの圧迫感を軽減すると共に、空へ融け込むような表情を目指す

文化庁地域文化創生本部との連携



- 職員派遣（京都府：6名、京都市：6名、関西広域連合構成団体：7名、経済界：6名）
文化庁職員と地元の実情、実態をよく知る職員が一緒に取組むことで、地域に根差した効果的な事業を実施

- 地域文化創生連絡会議（平29～）

- 趣旨

- 地元との連携・協力により地域文化創生本部の事務・事業を進める観点から実務者レベルの会議を定期開催

- ⇒ 設置年（平29）から毎年2回開催（計12回開催）

- 構成

- 文化庁地域文化創生本部、京都府、京都市、
京都商工会議所、関西広域連合、関西経済連合会

- 議題

- 地元における文化芸術振興に係る課題、取組事例
 - 文化庁と地元の連携・協力の在り方 など



文化庁地域文化創生本部開所式（平29.4）

文化庁と連携して実施している取組例①

- **全国高校生伝統文化フェスティバル開催事業**
全国トップレベルの高校生が京都に集い、日頃の成果を披露し合い、交流するフェスティバル
- **文化を未来に伝える次世代育み事業**
学校や地域の文化施設と連携した小中学生等への文化体験機会の提供
- **こころを育む古典の日推進事業**
古典の文化的価値を評価するためのフォーラム等を開催し、その魅力を国内外に発信



文化庁と連携して実施している取組例②



- 日本博府域展開アート・プロジェクト事業

文化庁が推進する日本博の一環である天橋立や福知山城周辺での「光の芸術祭」など、地域の文化に触れる新たな機会を創出することにより、観光誘客の促進、地域経済を活性化

- 京都Re-Search芸術祭創生事業

地域アートマネージャーによる地域の文化芸術活動の支援やアーティスト・イン・レジデンスの実施



文化庁と連携して実施している取組例③

- Art Collaboration Kyoto開催事業

国内外の美術関係者と京都の作家とのマッチングにより、京都の若手作家育成の仕組みを構築

- 京都アートラウンジ開催事業

作品販売等へ繋げるため、若手芸術家と芸術活動に関心を持つ企業経営者等との交流会

- アーティストフェア京都開催事業

国内外で活躍する京都ゆかりの芸術家自身が出展者として展示販売する京都創発のアートフェア



文化庁と連携して実施している取組例④

● CONNECT⇔展 府域展開事業

文化庁主催で実施するアートを通じて多様性や共生 社会について考えるプロジェクト
「CONNECT⇔展」と連携し、府内に在住しているもしくは活動拠点を持つ障害のある人たちが
生み出した芸術的表現



令和4年度の新たな取組

- 府民とつくるミュージックフェスティバル

「音楽」を通じた文化体験機会の創出及び地域活性化を図ることを目的とし、府民参加型の取組を実施

- 伝統文化の夢舞台

地域の伝統文化に携わる子ども達(小学生等)を対象に、日頃の活動の成果を披露する「夢」舞台を開催

- Stage Everywhere

芸術系大学の学生をはじめ、サークル活動や地域団体等、さまざまなアーティストが府内各地で芸術活動を発表する場を創出



- 無形文化財「京料理」魅力発信事業

「京料理」の無形文化財登録の動きを支援し、京料理の魅力や文化的価値を広く発信

文化庁京都移転ロゴマーク



文化庁京都移転ロゴマーク 令和3年3月決定

- 令和2年12月～令和3年2月 一般公募
(応募総数：684件(401名))
- 令和3年2月～令和3年3月 一般投票
(投票総数：968件)
- ロゴマーク活用登録件数：約350件(令和5年3月現在)

【掲出事例】

JR各社、NEXCO各社、私鉄、バス、タクシー、
京都パープルサンガ(プロサッカー)、小説帯
各種イベントフライヤー など

掲出例：小説帯



文化庁京都移転プラットフォームの立上げ



<目的>

オール京都で日本文化を基盤としたあらゆる分野の様々な取組を一年を通して実施し、**文化庁京都移転を盛り上げ**

- ・「文化庁京都移転ロゴマーク」の使用
- ・イベント名、サブタイトル等に「文化庁京都移転」を使用

令和3年11月21日（日）関西地域文化フェアにて、文化庁京都移転プラットフォームを始動

令和4年 5月21日（土）令和5年3月27日（月）に文化庁が京都での業務開始
（岸田内閣総理大臣の文化庁移転工事現場視察時のご発言）

6月27日（月）文化庁京都移転プラットフォーム総会

9月22日（木）文化庁京都移転プラットフォーム事務担当課長等会議（第1回）

令和5年 3月 1日（水）文化庁京都移転プラットフォーム事務担当課長等会議（第2回）

文化庁京都移転プラットフォーム（総会参加団体）

文化庁京都誘致協議会：

京都府、京都市、京都商工会議所、京都経営者協会、京都経済同友会、京都工業会、
京都府中小企業団体中央会、京都府観光連盟、京都市観光協会、京都府神社庁、京都仏教会、
京都文化交流コンベンションビューロー、京都文化財団、京都市音楽芸術文化振興財団、
京都市芸術文化協会、大学コンソーシアム京都、京都新聞社

市 町 村：京都府市長会、京都府町村会

オブザーバー：文化庁

事務局：文化庁京都移転準備実行委員会（京都府、京都市、京都商工会議所）



文化庁連携プラットフォームへ再編



<目的>

文化庁移転の意義の実現に向けて、文化庁との連携による新たな文化政策を行政、経済界、文化団体等が一体となって企画を立案し、実行・展開

令和5年 3月20日（月）文化庁連携プラットフォーム総会

文化庁連携プラットフォーム

構 成 員：京都府（共同代表）、京都市（共同代表）、京都商工会議所（共同代表）、京都経営者協会、京都経済同友会、京都工業会、京都府中小企業団体中央会、京都府観光連盟、京都市観光協会、京都府神社庁、京都仏教会、京都文化交流コンベンションビューロー、京都文化財団、京都市音楽芸術文化振興財団、京都市芸術文化協会、大学コンソーシアム京都、京都新聞社、京都府市長会、京都府町村会

オブザーバー：文化庁

プラットフォームが実施主体となり、関西万博を見据え文化庁と連携し、京都から日本の文化を世界に向けて発信

＜文化の力で世界に貢献する京都の実現＞

- 文化庁の京都移転や世界中が注目する2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）の開催インパクトを生かし、京都から文化創造・発信を行うとともに、多彩な交流を図ることで、国内外から高い評価を受ける「文化の都・京都」の実現をめざした取組を展開します。
- 文化の維持・保存・継承・定着を進めることで、文化の力で活力とうるおいがあり、豊かさを感じられる社会の実現をめざします。

京都府新総合計画（抜粋）



【重点分野】

- 文化庁の京都移転や大阪・関西万博開催の機会を捉えたオール京都での「文化の都・京都」の実現に向けた展開
 - 京都発の新たなメディア文化等を世界へ発信し、文化の国際交流の舞台となる京都を志向
 - 「京都国際アートフェア」を日本を代表する現代アートフェア「Art Collaboration Japan（仮称）」へ進化させ、京都で育てた作家が国際的に評価される仕組みを構築
 - プロ、アマの音楽家、音楽家を夢見る人々が世界中から集まり、交流し、新しい音楽を創造・発信する「“ミュージックフュージョン”京都国際音楽祭（仮称）」を開催
- 京都の伝統文化・生活文化・文化財の次代への継承と活用
 - 小学生等による地域の伝統芸能を発表する機会を創出し、伝統芸能を支える次世代の担い手を育成
 - 京料理や茶道、華道、その他の生活文化に親しむ機会の創出による、京都に根付く暮らしの文化の継承と国内外への発信
 - 国が設置する「文化財修理センター（仮称）」と連携した世界に誇る文化財修復拠点を形成
- 多彩な文化の交流の場の創出による新たな文化の創造
 - コンテンツ産業の集積を生かしたクリエイターと伝統産業や医療関係等との交流や、VR・ARやメタバースなどの先端テクノロジーとの融合の促進によるコンテンツイノベーションの創出
 - 丹後地域の歴史、文化、観光の拠点施設となる博物館をめざす府立丹後郷土資料館のリニューアル

文化庁への地元の期待



京都を舞台とし全国各地の素晴らしい地域文化を世界に発信



- 日本文化の再評価・再認識
- 地域の経済成長、活性化

京都の魅力

- 千年を超えて受け継がれてきた文化が今も生活の中に根付く地域
- 文化を背景として経済・産業はじめ様々な分野が成長
- 京都に新設される「食文化推進本部（仮称）」「文化観光推進本部（仮称）」に係る食文化、観光は、京都と高い親和性